

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590900197		
法人名	医療法人恵愛会		
事業所名	グループホーム誠愛		
所在地	秋田県鹿角市花輪字六月田73番地1		
自己評価作成日	令和7年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	令和7年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念でもある「その人らしさ」の表出を支援し、入居者様個々の状態に応じたケアの実践に努めています。また、介護の仕事を通し、命を守る仕事とし、小さな変化に気づき、入居者様と笑い、共に学びあえる環境づくりをしています。隣接が母体病院であることから、24時間医療体制が整っており、常に安全・安心に過ごしていただいております。職員は学びあえる職場づくりを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を運営母体として他の介護サービス事業と共に敷地内に整備され、恵まれた環境を活かして相互に関わりを持ちながらサービス提供しています。家族的な雰囲気の中でその人らしく生活できるよう、臨機応変な対応を心がけています。コロナ等の感染症を機に地域との交流が減っていますが、今後は運営推進会議を通して避難訓練やホーム内外の催し等で充実した交流に繋がっていくものと思われます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表者、管理者、職員共に理念を念頭に、利用者とのコミュニケーションを大切にするよう努め、その人らしさを考えて支援するよう取り組んでいる。	家庭的な雰囲気の中で利用者との会話を楽しみながら、利用者がその人らしく安心して暮らせるケアの提供を目指し、ミーティングで状況を確認することで理念を共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策も緩和され、ボランティアの方々を行事にお呼びしたりと、少しずつ地域との交流が持てるよう努めている。	コロナ禍以降、積極的な地域交流ができない状況が続いていますが、病院受診や散歩の際には声をかけてもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方々がいつでも相談に来られたり、行事への参加を呼びかけし、交流を持てるよう努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での生活状況を報告し、会議に参加していただいた方々の意見、助言等を運営に反映できるよう努めている。	避難の際の車椅子の使い方について等、参加者からさまざまな意見、提案が出され、議事録に残しています。	会議開催の主旨を理解し、参加者の意見、提案を災害対策やサービスに繋げる有効な機会と捉え、会議を運営に活かすための積極的な取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて情報交換を行い、市担当職員よりいただいた意見等を参考に、連携を築くよう努めている。	制度上の不明点を相談し、空き情報の報告や情報収集を行ない、時には窓口に出向いて協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修やミーティング等を行い、入居者の心身の状態を正確に把握し、身体拘束や虐待のないケアに努めている。	言葉遣いを注意し合ったり、グレーゾーンについても随時話し合っています。また、年1回セルフチェックを行ない、職員自身の行動を振り返っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、介護支援専門員が関係者と話し合い対応している。また、職員間で制度についての知識を共有し、理解するよう努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約の際は、利用者のご家族に十分な説明を行い、理解、納得を得るよう努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見、要望、苦情等は常に受付し対応している。また、それらを運営に反映できる体制を整えるよう努めている。	電話や面会時に話を聞いていますが、状況によっては法人本部に相談しながら適切に対応できるよう努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	職員の意見や提案を聞く機会は常に設けている。また、それらを反映し改善に繋げるよう努めている。	職員の休憩時間の確保等、日々の業務を通して出された意見を運営に具体的に反映させています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が持てるよう、外部研修等に積極的に参加するよう促し、交流を通じてサービスの質を向上させていくよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を十分に傾聴し、言動・行動等を注視しながら、他利用者・職員と安心して生活が送れるよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見・要望・不安等を十分に傾聴し、良好な信頼関係の構築に努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること、支援が必要な部分を正確に把握し、家事や清掃等の軽作業を通じ、互いに支え合う生活が送れるよう努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、お便り等を通じて、施設での生活状況を報告し、共に本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご家族との面会に限らず、本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が、今後途切れることがないよう努めている。	通院時に声をかけてもらう看護師や訪問理容の方と馴染みの関係性ができており、自宅周辺等の思い出の場所までドライブすることもあります。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を正確に把握し、孤立しないよう支援している。トラブル等を事前に回避できるよう、見守りの徹底に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、本人・ご家族からの相談を受け入れる体制を整え、関係を断ち切ることがないよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報共有を十分に行い、本人の思いや意向を正確に把握できるよう努めている。	日常会話の中で本人の意向を確認しています。連絡ノートを活用し、情報を共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日常生活の会話の中や、様々な関係者から情報収集を行い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	カンファレンスにて入居者の状態を話し合い、意見やアイデアを十分に反映した個別介護計画を作成している。	介護計画に沿って記録されており、担当者会議でモニタリングを行ない、介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護記録・連絡ノートの活用・朝夕の申し送り等で情報を共有し、個別介護計画の見直しに繋げている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、地域行事や施設行事への参加の呼びかけを行い、楽しく暮らすことができるよう支援していきたい。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する母体病院にて受診し、適切な医療をうけられるよう支援している。また、標榜以外の受診の際は、ご家族が対応している。	内科、歯科以外は家族対応としており、利用者の状況がわかる手帳を持参してもらって情報提供しています。薬局とも連携し、良好な関係を築いています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日常生活での変化や気づきを正確に伝え、必要時は母体病院と連携し適切な受診をうけられるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師が常勤しており、入院時は多職種間で情報を共有し、隣接する母体病院と連携がとれるよう努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、医師と話し合い、ご家族の意向を確認し母体病院への移行支援を行うよう取り組んでいる。	ホームでの生活が困難になった場合は母体病院の医師が家族に状況を説明しています。家族の意向を確認し、その思いを大切に次への支援に繋げています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に迅速な対応ができるようマニュアルを作成しているが、実践訓練ができていない。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。近隣住民との協力体制ができつつあるが、合同訓練には至っていない。	感染症の発生等で今年度の訓練は実施していません。運営推進会議で協力の申し出があり、近々に予定している訓練に参加してもらうことを検討しています。	夜間の避難において、協力してくれる方の具体的な支援方法を話し合っ訓練に活かし、更に法人の機能を活かして利用者、職員の双方が安全に避難できる訓練の実施を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重したケアを意識している。認知症状に合わせた言葉かけの工夫を し対応している。	排泄、入浴の際にはプライバシーに配慮し、 本人の意向を確認しながらケアを行なってい ます。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	その人らしい生活を送れるよう、本人の希望 に寄り添った服装を準備し支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	職員が見守りながら入居者と同じテーブル で一緒に食事をしている。食後には、食器拭 きやテーブル拭き等、できることを依頼し手 伝っていただく。	誕生日のメニューに食べたいものを取り入れ たり、バーベキューの日を設ける等、利用者 が楽しく食事ができることを企画しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、職員間で情 報共有している。本人の状態に合わせるよ う工夫しながら調理し提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、個々の力に応じた口腔ケアを行う よう支援している。就寝時は、洗浄剤を使用 し清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用にて排泄パターンを 観察し、個々の状態に応じた排泄支援を 行っている。	ベッド上でオムツを交換している方もいま すが、基本的にはトイレで排泄できるよう支援 しています。個々の状況に応じて排泄用品の 種類を検討し、費用負担に配慮しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排便状態を確認し、排便がない際は、水分 補給や運動等への働きかけを行うよう支援 している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回、1日3人を目標にリラックスした気分で入浴できるよう支援している。入居者の状態に合わせて、シャワー浴等の対応も行っている。	片麻痺の方や皮膚疾患のある方はシャワー浴、かけ湯の対応をしています。拒否のある方には声かけを工夫して入浴を促し清潔が保てるよう支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣を把握し、安心して眠れるよう個々の状態に応じて支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服用されている内容の処方箋を、全職員が閲覧できるよう管理している。変更の際も周知徹底に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者本人の個性を捉えた支援ができるよう努めている。本人の状態を把握し、負担のかからない活動をしていただくよう支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事のドライブや、ホーム周辺の散歩等、外出支援を行っている。地域行事への参加など、その機会を少しずつ増やしていくよう努めたい。	利用者が皆外出できるよう花見ドライブ等を企画し、近隣への散歩も取り入れて外の空気に触れることができるよう支援しています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態により、金銭トラブル等を防ぐため個人での金銭管理は行っていない。必要物品がある際は、ご家族へ連絡し購入している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の温度・湿度は快適に過ごしていただけるよう職員が管理している。掃除の際は、窓を開けて換気し、臭気がないよう配慮している。	広く、明るいホールは利用者の語らいの場となっており、大半の時間を過ごしています。利用者に床のモップがけを手伝ってもらい、季節感を取り入れた飾りつけを職員と一緒にしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の行動を抑制せず、本人の意思で自由にホールや居室で過ごしていただけるような雰囲気作りに努めている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや写真等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。できる限り、自宅での生活環境と変わらないよう配慮に努めている。	その人の導線に合わせた家具の配置等、職員間で検討しながら安全に過ごせる工夫をしています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内、手すりを設置し安全に移動できる環境作りに努めている。居室・トイレ・浴室の表示も分かりやすいよう工夫している。		